

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひなたスコーレ（保育所等訪問支援）			
○保護者評価実施期間	2026年1月20日		～	2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	5名
○従業者評価実施期間	2025年2月15日		～	2025年3月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○訪問先施設評価実施期間	2025年2月15日		～	2025年3月8日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	10か所	(回答数)	7か所
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○ご家庭との事前のやりとりで、保育所等訪問支援の目的を明確にすることで、具体的な場面でのアセスメントを行い、訪問先施設で対応可能な支援の方法や配慮事項を提案していること。	○対象児やご家族の願いと訪問先の体制なども鑑みて、継続することが可能な支援の方法を提案するよう心掛けている。 ○対応して下さる先生方が、できるだけ、孤立しないよう、園や学校全体で対応をして下さるよう働きかけている。	○実際の場面で導入して頂いている支援や配慮に関しては、具体的に、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に反映することで、引継ぎがスムーズになるようお願いしていく。
2	○WISC-IVや新版K式検査の結果なども踏まえて、対象児の強みや弱みの背景を伝え、本人理解を深めて頂いている。	○担当の先生から困り事やうまく適応できていない場面をお聞きし、対象児の特性理解を深めて頂いた上で、導入可能な支援を共に考えている。	○支援方法や配慮を行っても、対象児の行動変容が見られず、困り事が解消されない場合もあるので、ご希望に応じて、訪問支援の回数を増やす対応をする。
3	○教育委員会、子ども総合支援課、子ども課など、行政機関との連携を図ることで、より園や学校、家庭との連携が可能となり、継続的な支援につながる。	○必要に応じて、連携をし、情報提供や共有を欠かさずに行っていること。	○困り事やニーズのあるご家庭へ積極的に利用を推奨していくこと。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○一人の訪問支援員しかいないため、ニーズにあったタイミングに訪問支援を実施できないことがある。	○訪問支援員が少ないこと。	○訪問支援が可能な職員を増やすことが必要。 ○訪問の目的をご家庭だけでなく、訪問先側ともやりとりし、日程調整を行っていく。
2	○保護者のニーズを傾聴し、園や小学校、中学校への訪問支援の必要性に気づくが、ご家庭からのご利用の意思表示を待ってからの利用としている。	○訪問支援員が一人であること、ご家庭からの利用の意思表示を待ってからの利用決定としていることが要因。	
3			